

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成30年5月10日 (2018.5.10)

【公開番号】特開2017-175949(P2017-175949A)

【公開日】平成29年10月5日 (2017.10.5)

【年通号数】公開・登録公報2017-038

【出願番号】特願2016-64197(P2016-64197)

【国際特許分類】

C 1 2 N 1/20 (2006.01)

A 2 3 L 33/135 (2016.01)

A 6 1 K 35/745 (2015.01)

A 6 1 K 35/74 (2015.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/24 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 1/20 A

A 2 3 L 33/135

A 6 1 K 35/745

A 6 1 K 35/74 A

A 6 1 P 25/00 1 0 1

A 6 1 P 25/24

A 6 1 P 43/00 1 0 5

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月19日 (2018.3.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

セロトニン分泌促進能力を有するビフィドバクテリウム属に属するビフィズス菌。

【請求項 2】

前記ビフィドバクテリウム属に属するビフィズス菌がビフィドバクテリウム・ロンガム N 6 1 株 (N I T E B P - 0 2 2 1 4) である、請求項 1 に記載のビフィズス菌。

【請求項 3】

請求項 2 に記載のビフィズス菌を有効成分とするセロトニン分泌促進剤。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

すなわち、本願第一の発明は、セロトニン分泌促進能力を有するビフィドバクテリウム属に属するビフィズス菌であり、本願第二の発明は、本願第一の発明に記載のビフィズス菌が、ビフィドバクテリウム・ロンガム N61 株 (N I T E B P - 0 2 2 1 4) である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

以下、本発明を詳細に説明する。

1. ビフィドバクテリウム・ロンガムN61株 (NITE BP-02214)

本発明のビフィズス菌は、ビフィドバクテリウム・ロンガム (*Bifidobacterium longum*) である。特にビフィドバクテリウム・ロンガムに属するビフィズス菌のうち、ビフィドバクテリウム・ロンガムN61株 (NITE BP-02214) である。本発明にいうN61の記号は日清食品ホールディングス株式会社で独自に菌株に付与した番号であり、本ビフィドバクテリウム・ロンガムN61株は本発明者によって初めて分離されたものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

本発明のビフィドバクテリウム・ロンガムN61株は、下記条件で寄託されている。

(1) 寄託機関名：独立行政法人製品技術基盤機構 特許微生物寄託センター

(2) 連絡先：〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足2-5-8 122号室

(3) 受託番号：NITE BP-02214

(4) 識別のための表示：N61

(5) 原寄託日：2016年3月3日

(6) ブダペスト条約に基づく寄託への移管日：2017年1月5日

本発明のビフィドバクテリウム・ロンガムN61株の菌学的性質は、以下の表1及び2に示す通りである。本菌学的性質は、Bergey's manual of systematic bacteriology Vol.2(1986)に記載の方法による。表1は本菌株に関する形状等を、表2はアピ50CH及びアピCHL(バイオメリュー製)により、糖資化性を試験した結果を示す。表2において、「+」は発酵性あり、「-」は発酵性なしを示す。